

東日本大震災による水産業の被災状況の 把握と振興方向の検討に関する研究 ～ 岩手県宮古市津軽石川のサケ養殖業を事例として ～



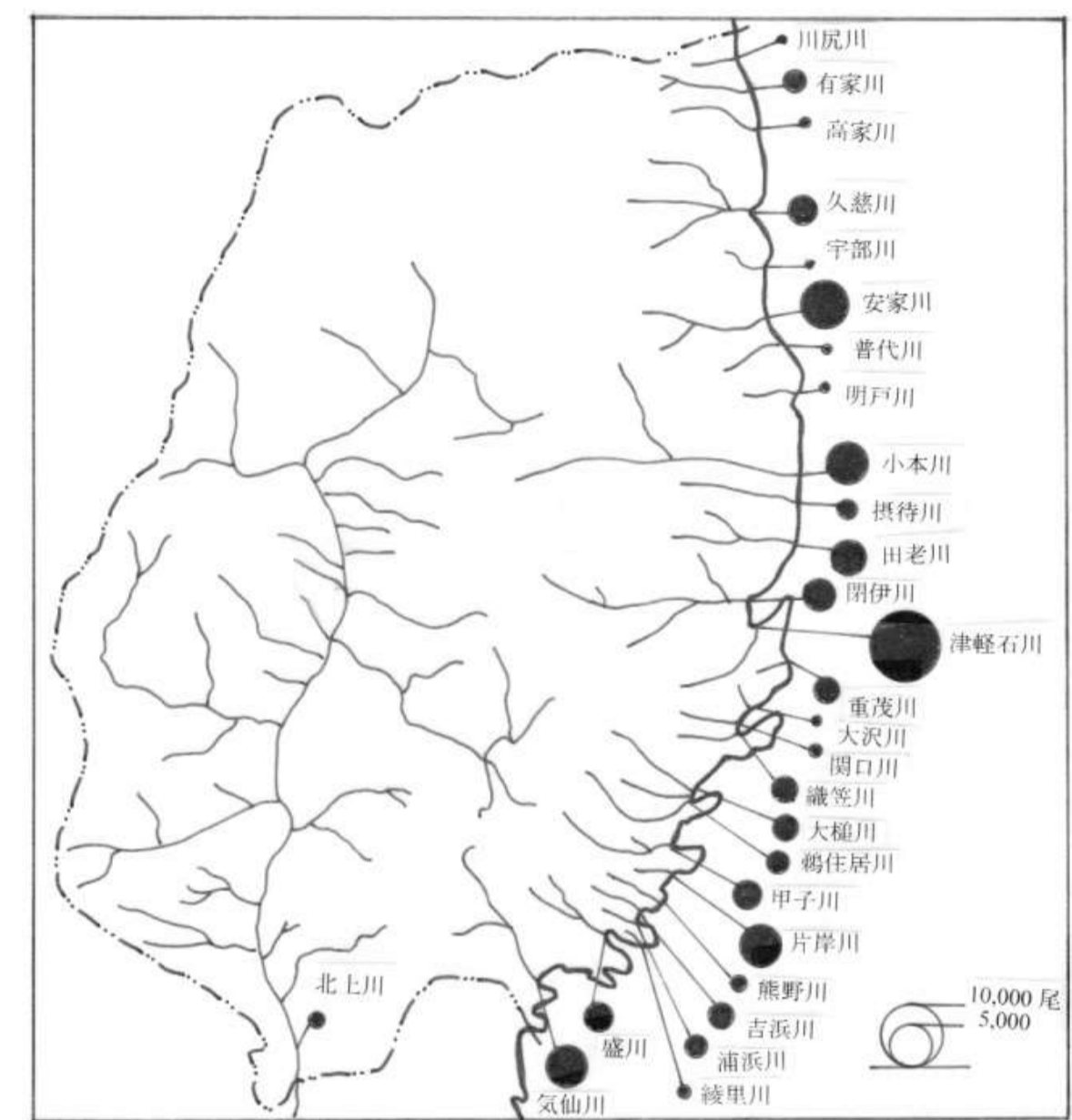
小島 彰・井上 健・阿部高樹・初澤敏生（経済学系）

研究目的及び研究対象地域

本研究は震災によって大きな被害を受けた沿岸部の水産業の被災状況を把握するとともに、その復興・振興方向を検討することを目的としている。現在、福島県から青森県にかけて調査を進めているが、今回は岩手県宮古市津軽石川のサケ養殖業を事例として報告する。

サケは川で生まれ、太平洋を回遊して再び産卵のために川をさかのぼる魚として知られている。現在の日本では、ほとんどが人工孵化によって繁殖が行われているが、震災は多くの孵化場を破壊し、使用不能とした。

岩手県は北海道に次ぐ日本第2位のサケ捕獲県であるが、中でも津軽石川は県内の約20%の捕獲量を誇る「南部鼻曲り」の産地として知られている(図参照)。津軽石川で捕獲されるサケは宮古漁協津軽石孵化場で孵化・育成・放流されるが、今回の震災により、孵化場は大きな被害を受けた。



岩手県の秋鮭河川捕獲量(2010年度)
岩手県農林水産部水産振興課の資料により作成

被災状況

津軽石孵化場は2010年秋に捕獲したサケの稚魚を育成中であつたが(例年であれば、3月～5月に放流)、地震により甚大な被害を受けて育成不能となり、津波の危険もあったため、全稚魚を緊急放流した。その後、津波によって施設は破壊され、使用不能の状態となっている。幸いなことに人的な被害はなかった。写真は2011年7月に撮影したもので、がれき等は撤去されているが、配管の被害状況などは未調査で、復旧にはまだ時間がかかるものと考えられている。



復興の方向

本孵化場は5,140万尾の孵化能力を持つ岩手県最大のサケ孵化場である。そのため、その復旧・復興は岩手県のサケ漁の復興に重大な意味を持つ。孵化場では100%の復旧を目指して整備を進めている。しかし、9月には早いサケが帰ってくるため、初期に必要な施設から順に復旧工事を進める予定である。

岩手県は復興計画の中で漁協等が連携したサケの効率的な生産体制を構築することを打ち出している。その具体的な内容はまだ明らかではないが、今後、生産体制の再編成がなされる可能性もある。それが地域漁業に与える影響は未知数であり、継続的に研究を進めたい。

【お問い合わせ先】

960-1296 福島市金谷川1 福島大学研究協力課

TEL: 024-548-8009 E-mail: kyoudo@adb.fukushima-u.ac.jp